

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070102557		
法人名	社会福祉法人紀伊福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム紀伊てまり苑		
所在地	和歌山市西田井224		
自己評価作成日	令和3年1月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=3070102557-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム紀伊てまり苑は「家庭的な環境の下で有用感を持ち、安心した生活をする中で、心身の機能向上を図ること」を目的としています。ご利用者様を個人として尊重し、その方らしい生活の継続を願い、科学的介護の4つの基本ケア(水分・常食・運動・自然排便)の実践に努めています。食事は旬にこだわり、皆様の食べたい物を作りし、節句料理の季節感を大切にし喜んで頂いています。
コロナ禍の今、感染防止から主治医が定期的に来て下さり、健康管理もして下さっています。また緊急時には何時でもかけつけて下さり、家族様からも「とても安心」と言って頂いています。
また外出自粛の為、室内で自然を楽しもうとメダカの飼育やヒヤシンスの水栽培をしたり、馴染みの場所へドライブに出かけたり、手紙や電話、携帯の動画等で家族様と交流をして頂くなど、皆様穏やかに活動的に過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、クリニックや特養・支援ハウス・デイサービスなど様々なサービスがある複合施設に併設されている。管理者と職員は、入居者の生活歴や生活習慣をよく理解し、日々の生活の中で有用感や達成感を持てるよう、理念に沿った支援を実施している。また、入居者が自己決定しやすいよう声掛けを行い、日常生活で出来にくくなったことの原因を話し合うなど、入居者の能力が回復出来るよう自立支援介護に努めている。医療面に関しては、かかりつけ医の往診や緊急時の対応、看護師の訪問があり、本人・家族は安心して生活することが出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまにある
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の一員として高齢者が安心して生活できる事を目指すという理念を作り管理者、職員は理念を毎日読み合い共有し実践につなげています。朝1日の目標を決め夕方どうであったかをノートに記入し皆で共有しています。	理念は、事業所開設時に管理者・職員が話し合い作り上げたものである。職員は、理念について十分に理解し、それに沿ってケアに取り組んでいる。また、月1回のスタッフ会議や申し送り時に、理念がケアに反映されているか振り返る機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の「紀伊文化まつり」は企画から参加し作品を出展していました。みかん狩りなどの招待を受けて行かせてもらったり、地域の八百屋さんに来てもらい買い物を楽しまれました。今は新型コロナウイルス感染防止の為、地域の行事も中止となり、訪問もご遠慮頂いています。	今年度は、コロナウイルス感染予防のため地域との関わりが難しい状況であったが、感染予防を実施したうえで、地域の方が花の水やりのために訪問してくれたり、畑でできた野菜を届けてくれるなど日常的に交流は図られており、事業所として出来ることを行っている。また、法人のてまり苑が主催する作品展には、地域の方も花を出品されるなど交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の方の訪問時などに自然な形で理解に努めています。地域で介護の事・認知症の事で困ったら「ここに相談をしたい」と言ってもらえるような存在を目指しています。今年の夏休み中に「てまり子供交流会」という催しを行い子供達に高齢者とふれあっていただくことを通じ高齢者への理解を深め、子供達に高齢者介護福祉の職場に来ていただき職業としての職場を知っていただく取り組みを行っています。昨年はコロナウイルス感染防止の為中止しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の日頃の状況や取り組みについて報告 話し合いをして意見を頂き、サービスの向上に活かしています。また地域からの情報・意見を頂き、グループホームの活動を委員さんを通じて地域へ発信して頂いています。防災についても、地域の方と相互に協力していけるよう話し合いをしています。	会議は、大部屋を利用しソーシャルディスタンスを保って2ヶ月に1回開催されている。施設長、支所長、家族、地域住民等が参加し、会議では、入居者の日頃の様子や事業所の取り組み等を報告している。また、地域密着型サービス外部評価についても報告のうえ、様々な意見をもらいサービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、紀伊支所の支所長や包括支援センターの方に参加して頂き、又、地域包括ネットワーク会議、又、第二層の会議に参加したり、日頃から市町村の担当者と連絡を密に取り事業所の実情やサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くように取り組んでいます。	管理者は、認知症カフェの実行委員であり、現在はリモートで会議に参加している。また、地域のネットワーク会議にも参加するなど地域包括支援センターとの関りも深い。生活保護の方が入居しているため、保護課のケースワーカーも定期的に訪問し情報交換を行うなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針、身体拘束適正化指針を作ったり、30年4月より身体拘束適正化委員会を改めて設置し3ヶ月に1回定期的に委員会を職員研修を年2回以上持ち正しく学び理解し、玄関に施錠しないのは勿論の事、言葉の拘束についても意識を高め、拘束しないケアに全員で取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会には、施設長・医師・看護師・管理者擁護推進委員等が参加し、事業所のケアが身体拘束に該当していないかを定期的に確認している。管理者・職員は、スピーチロック等も身体拘束になることを十分に理解し、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員は高齢者虐待防止関連法について学び虐待を見過ごす事なく徹底的な防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は生活自立支援事業や、成年後見制度について学びそういう方がおられる場合は活用できるように支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約又は改定等の際は、家族にわかりやすく説明し、不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解・納得を図っています。長期の利用にかかる経済的な不安などについても話し合い相談をうけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問しやすく、職員に何でも話をしてもらえそうな雰囲気作りに努めています。困っている事や問題点がないか伺うようにしています。言いにくい事が言えるように第三者委員を公表して玄関には意見箱も置いています。出された意見等は、前向きに検討しサービスの向上につなげています。	コロナウイルス感染予防を行いながら、家族の面会を支援している。職員から、家族に入居者の日頃の様子を伝える際、家族からも意見や要望を話していただくよう信頼関係づくりを心がけている。家族からの要望で、玄関の手すりを追加設置した経緯もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や勉強会を定期的に行い意見や提案を聞き運営に反映させています。また仕事中でも意見や提案があれば聞き、職員の意見を大切に、働く意欲の向上につなげています。	職員と管理者は、日頃より意見や提案などを伝えやすい関係であり、月1回のスタッフ会議でも、意見や提案を聞く機会を持っている。職員からは、入居者のケアや業務内容の変更、行事等について様々な提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員一人ひとりの事を良くみてくれ努力や勤務状況をよく把握し、給与水準や労働時間、やりがいなど向上心を持って働けるように職場環境、条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの力量を把握し法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていく事をすすめています。又、代表者が講師となり、「科学的介護を学ぶ会」「生理学」の勉強を続けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者と交流する機会を持ち話し合い相互訪問を行いサービスの質の向上をさせていく取り組みをしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人の困っていること、不安なこと、要望等、本人の気持ちに寄り添い耳を傾けながら本人の安心できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら家族の気持ちを受け止め、よりよい関係性が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が必要な支援なのか、本人や家族とよく話し合い見極め、必要に応じて他のサービスの利用も調整しながら徐々に馴染んでいけるよう対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者は共に食事の支度や買物、洗濯物をたたんだりしながら一緒に生活している感覚を持ち、「共に支え合う」関係を築き自然に寄り添い、喜怒哀楽を共にした時間を共有しています。本人の得意な事をして頂く事で自信回復、有用感のある生活をして頂き職員と利用者はお互いに支えあっている関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族とよく話し合い、家族のこだわり、思いを受けとめ本人と家族の絆を大切にしながら家族と共に本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた親族や友人との交流を大切にしています。地域へのドライブコースに利用者が以前住んでいた地区や馴染みの神社へ行くよう支援しています。今年はコロナウイルス感染防止の観点から家族様に面会を控えて頂いたので、葉書・写真を送る・電話・携帯電話を使った動画などで交流をして頂いています。	コロナウイルス感染予防の為、馴染みの場所に出かけられなかったり、家族や地域の方の訪問が難しい状況であるが、感染予防を行い家族との玄関先での短時間の面会を支援したり、入居者が書いたハガキを送ったり、電話の支援をするなど馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に助け合い支え合って暮らしていくことの大切さを職員はよく理解をし、一人ひとりが孤立せず支え合いながら生活を楽しめるように支援しています。地域のボランティアの訪問も多く馴染みの関係が来ています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰や他所に移られるなどで契約が終了しても利用者の住み替えによるダメージを最小限にする為、移り住む先の関係者に対して情報を細かく伝え、本人・家族の経過をフォローし相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや願いを話しやすいような環境を作り、希望を常に聞き、よく把握し自己決定を大切に「本人の望む暮らし」が実現できるように支援していきます。困難な時は家族様とも相談をし本人主体に検討しています。	日ごろから自己決定をしやすいよう声掛けを行うとともに、一人一人の思いや意向を把握するよう努めている。また、声掛けや意向の把握の困難な入居者については、日頃の様子から、本人本位に職員間で話し合い検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族から話をよく聞き、一人ひとりの生活歴や暮らし方の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別処遇を大切にし職員全員が利用者一人ひとりの一日の過ごし方や有する能力などの状況を総合的に把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週一回の医師・看護師・代表者参加のカンファレンス会議を持ち、本人・家族と話し合いそれぞれの意見を反映した現状に即した介護計画を作成しています。また設定期間の見直しだけでなく、家族・本人の新たな要望・状況の変化に対応しています。	定期的なモニタリングを行い、都度、本人・家族と話し合う機会を持っている。また、医師・看護師・施設長も交えたカンファレンスを週1回開催し、医療面からの意見も計画書に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアノートや水分摂取や運動量も時間毎に記入する表も作り、日々の実践・結果・気づきを具体的に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やその時々ニーズに合わせて、本人を主体とする柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催の「紀伊文化まつり」へ参加したり、地域の魚屋さんにライトバンで来てもらって買い物を楽しむなど、地域資源を活用し本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援しています。又グループホームの応援団的なボランティアの方がおり毎日、花、野菜の水やりや利用者と一緒に収穫をし、外出時は車椅子や必要な物を運んでくれたり、行事への参加、皆さんと顔馴染みになっています。外部の研修会等に参加し、学んだことを、ご利用者自身が実践しています。今はコロナ禍の為、地域の方の訪問も控えて頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に適切な医療を受けられるよう支援しています。また、かかりつけ医は受診時だけでなくカンファレンス会議に毎週出席してくれ本人・家族の希望をよく聞いてくれます。現在はコロナ禍の為往診に来てくれています。	入居前からのかかりつけ医の継続は可能であるが、ほとんどの入居者は、協力医療機関に変更をしている。また、他科受診時には、かかりつけ医より紹介状を持参し、家族の協力のもと適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に利用者をよく観察し日常での体調の変化など早い段階での気づきを看護師に相談をし、看護職・介護職と協働しながら利用者が適切な看護を受けられるようにし、健康管理や医療支援につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、安心して過ごせるように時々お見舞いに行き、病院関係者と情報交換や相談に努めています。また本人・家族とよく相談をし、退院後スムーズに生活が始められるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期のあり方や希望を聞き、看取り伺い書に記入してもらい文書を残しています。重度化・終末期には家族の希望を聞き、多職種・家族で協働し連携を図りながら支援に取り組んでいます。終末期の看取り介護方針を作っています。	事業所は、重度化や終末期のケアに取り組んでおり、看取りの経験もある。入居時には、看取りの指針について本人・家族に説明をしているが、状態の変化に応じて何度も話し合いの機会を持ち、家族の希望に沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作りそれに添って職員全員が勉強し、入居者様、家族様や支援して下さっている地域の方も一緒に訓練を行っています。苑の建物は市から避難場所としての要請も受入れています。職員は苑で行う消防署が入ったの訓練や地域の訓練にも参加をし、災害に備えて水・食料・寒さをしのげるような物品を用意しています。備蓄の食料品は年に2回賞味期限を確認し、交換しています。	併設している特養など、法人全体の避難訓練には消防の立ち合いのもと、参加している。3ヶ月に1回事業所独自に昼夜通しての訓練を行い、入居者も参加している。また、法人の施設は、災害時の避難場所になっており、水や食料などが備蓄されている。一昨年の台風の際、地域が断水し、地域住民が施設の水を利用した実績もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は尊厳の保持、プライバシーの確保の大切さを認識しており、ご利用者の人権を尊重し、日頃はもちろんのこと、特に排泄や入浴時などは、特に注意深く誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています。	呼称は、基本的に苗字を用い、排泄の声掛けは人前では行わず、各自の部屋に入ってから行うなど誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。また、個人情報のファイルなどはカギ付きの書庫で保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自分の意見や思いを言える環境を作り、その人に分かるようにゆっくりと説明をし、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から利用者のやりたい事、希望などを引き出せるような会話をもち選択肢を広げ自己決定できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に合わせ、理・美容店を利用したり、お化粧をしたり服装も自分で選んで着られるよう、身だしなみやおしゃれができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、一人ひとりの好みや季節感を大切に話をしながら一緒に献立を立て、旬の食材を使い、今まで食べ慣れた物や懐かしいもの等を大切にしています。また畑へ野菜を取りに行き調理をするなど季節感を大切に形態も一人ひとりに合わせて作っています。利用者と職員と一緒に準備・食事・片付けをしています。又、季節の行事や誕生日には利用者の好きなご馳走を作るなど、食事のバリエーションを増やしています。	事業所には、地域の方の協力を得て菜園がある。そこには季節の野菜が育てられおり、苗を買いにいたり、水やり、収穫など入居者も一緒にいきそれらが食卓に並ぶ。また、入居者は食材を切ったり、料理を盛ったり、テーブル拭き、味見をするなど一人ひとり役割をもって食事の準備や片づけを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は栄養や水分量の確保の大切さを確認し、利用者の状況に応じた支援をしています。また個別ノートには、食事量や水分摂取量を記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアについて勉強し、毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じてケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	竹内先生から学んだ科学的介護を実践し、一人ひとりの排泄パターンやくせ等をよく把握し、自然排便を大切にし、朝食後は便器に座る事でトイレで排泄をする自立に向けた支援を行っています。現在は下剤を使わず、全員がトイレで自然排便をされています。	退院時、失禁状態であった入居者も科学的介護を実践し、その入居者の排泄パターンを把握することで失禁がなくなり自立してトイレに行くようになった事例がある。科学的介護を行う際、一人ひとりに合った水分量や運動量をかかりつけ医と相談しながらの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、よく理解をし医師と相談し一人ひとりの水分の目標を決め取り組んでいます。常食を摂り運動をする事で便秘の予防をしています。起床時に冷水を飲んでもらいヨーグルトや食物繊維の物を食べて頂くなど個々に応じた支援をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しみながら入浴できるように職員の都合に合わせるのではなく、入居者一人ひとりの希望に合わせた支援をしています。ゆったりと心身ともにリラックスして入って頂けるようにしています。季節の湯、冬至・柚子湯などを行っています。	週2回入浴が出来るよう支援している。入浴を拒む入居者には、声掛けの工夫を行ったり、職員を交代するなど、入居者が気持ちよく入浴出来るよう支援している。また、重度な入居者には、機械浴にて対応し、安心して入浴を楽しんでもらっている。入浴中は、入居者もリラックスし、楽しい時間を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にしながら、その時々状況に応じ休息や睡眠が安心して取れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師・代表者参加のケアカンファレンス会議で、一人ひとりの薬についてよく勉強しており、症状の変化の確認に努めています。服薬前は、職員2人で薬の確認をして誤薬を防ぐようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意な事をよく理解し、得意な事、やりたいと思える事が言える支援をしながら、その方らしい生き生きとした暮らしが送れる様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって外出を支援しています。庭の散歩やドライブ・地域から来てもらっている魚屋へ買い物に行く事や、テレビのニュースで蓮の花が咲いたなど、行きたいという思いを大切に支援しています。今はコロナ禍の為、馴染みの場所へドライブに行っており、	日常的に、事業所の庭で日光浴や散歩をしたり、地域にドライブに出かけている。以前は、季節行事として各地に出かけていたが、今年はコロナウイルス感染予防のため出かけにくい状況にある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、家族様ともよく話をして買い物に行くなど、一人ひとりの希望を大切にお金を使えるように支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に近況を知らせる葉書を書いたり、年賀状や暑中見舞いなど交流をしています。今年はコロナ禍で葉書や写真を送り近況を知らせたり、電話や動画を送らせてもらっての交流支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は温かみのある色調で利用者が安心して居心地良く過ごせるような工夫をしています。共有空間・居間の大きな窓からは光が降り注ぎ、四季の移り変わりもよく感じられます。	共用空間には、コロナウイルス感染予防のためオゾン発生器を設置し、検温や消毒を行っている。庭に咲いている季節の花を生けたり、職員と入居者が一緒に作ったカレンダーを飾るなど、居心地の良い空間となっているため、入居者は日中、共有空間で過ごすことが多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でゆっくりしたい時には居室で気のあった人同士少人数で過ごせる場所で話をしながらリハビリをしたり、居間で皆でテーブルを囲んで食事や行事を楽しむなど、利用者様が思い思いに過ごされる場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が使い慣れた好みの家具などを置いていただき家庭生活の延長のように居心地良く過ごせるような工夫をしています。	居室には、好みのカーテンを掛けたり、使い慣れたタンスや椅子、こたつなどが持ちこまれている。入居者が希望すれば、量での生活も可能であり、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの「できること」「わかること」を活かし混乱や失敗を防ぎ自立して暮らせるよう工夫をしています。例えば、日めくりカレンダーを作ったり目の高さに手作りの表札を掛けて自室を分かりやすいように工夫しています。		